

封された記憶

学校番号 030 番 八洲学園高等学校横浜分校

ジオラマクラス 川口 泰史

新緑の匂いが風に乗って訪れる。
その源は中井侍の地で育まれた銘茶だった。
乗降場からは天竜川が窺え、山と川が溶け合う景色が一望できる。

——私たちには夢があったよね、覚えてる？
風景に見惚れていた時、そんな言葉が耳に入ってきた。
声の在り処を探すように、横に視線を向けた。

そこには、彼女がいた。
太陽のような笑顔を浮かべる彼女が。
気が付けば、列車が停まっている。

——あの夢を叶えるために、共に旅立とうよ。
彼女はそう言って、列車へと飛び乗り、手を差し出してくる。

だが……
「私の夢は、冷めてしまったよ」
きっと既に。

——貴方は最も暖かい場所で、最も冷たく在るの。
いつか融け出すまで。

結末は決まっているだろう。
それでも足を踏み出した。

手を握った。
君の元へ往こう。やがて灰となってしまう君の元へ。



旅する人
江戸川乱歩賞
2026 出展作品